

## 水稻の栽培管理について(穂肥・防除)

### 1 水管理

幼穂形成期以降はイネの要水量が多くなります。品質向上やカドミウム吸収抑制のため、出穂前後各3週間は常時湛水を行います。常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理します。

湛水管理終了後は、間断灌水を実施し、根の活力維持に努めます。



### 2 穂肥について

穂肥は、穂数・籾数の確保や登熟期における栄養の維持を図るため、適期に必要な量を施用することが重要です。幼穂長や茎数・葉色を確認し、穂肥の施用時期と施用量を調整しましょう。(詳細は別表を参照してください)。

#### ○夏の高温下における品質向上対策について(耐暑肥の施用)

地力が低いほ場や籾数過多のほ場では登熟期間の葉色が低下しやすく、登熟不良となり白未熟粒や屑米の増加が懸念されます。

8月以降の気温が高温となり、葉色が薄い場合は、走り穂の時期に窒素成分で1~1.5 kg/10aの施肥(耐暑肥)を施用しましょう。

### 3 病虫害防除について

#### (1) いもち病

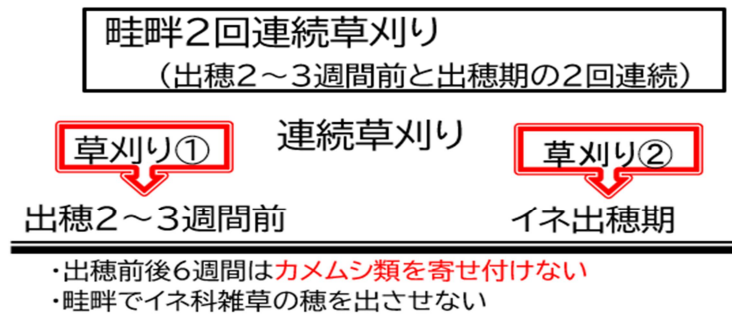
梅雨明けが遅く、遅くまで低温が続く年は、いもち病の発生がしやすい条件が続きますので、特に注意が必要です。いもちが発生しやすいほ場を中心に見回り、発生が認められた場合は防除しましょう。

環境こだわり栽培のほ場は、使用剤数(成分数)等により認証基準を満たさない場合がありますので注意してください。



## (2) 斑点米カメムシ類

薬剤防除だけではカメムシ類の被害を十分に防ぐことは困難です。**出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈り**で畦畔でのカメムシ類の発生が少なくなり、ほ場への侵入が少なくなりますので、**適期の畦畔草刈りと薬剤防除の組み合わせ**で、カメムシ類の被害を防止しましょう。



<注意>キラップ粒剤を使用する場合、稲が薬剤を吸収する時間がかかるため、走り穂を確認した段階で速やかに施用してください。

### ★「みずかがみ」の防除時期について

「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」より**出穂が早いため**、畦畔等の雑草地からのカメムシ類の侵入を受けやすく、**斑点米発生**のリスクも高くなります。

○防除スケジュールの目安

- ① 7月初旬: 1回目の畦畔草刈り
- ② 7月中旬以降(出穂期: 1回目の約3週間後): 2回目の畦畔草刈り
- ③ 7月末～8月初旬(出穂7～10日後<sup>※1</sup>): 薬剤防除

※1: イネカメムシが多い場合は防除時期を早めてください((3)参照)



ホソハリカメムシ



クモハリカメムシ



斑点米

## (3) イネカメムシの防除について

- ・出穂期に籾の基部を吸汁し、不稔籾を生じさせ、加害された穂は傾かずに直立穂となります。減収の要因となり、被害が大きい場合は収穫皆無となることもあります。
- ・穂ぞろい期以降は斑点米を発生させます。
- ・昼間は株元に潜み、夜間に穂を加害します。
- ・発生が多い場合、**出穂期**に防除する。
- ・防除後も多い場合は、乳熟期頃(出穂7～10日後)にも追加防除する(JA こうか特別栽培米のほ場は追加防除できません)。



イネカメムシ  
(成虫)



イネカメムシ  
(幼虫)

(別表)品種ごとの穂肥の施用について

「みずかがみ」穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量		
	出穂前25日前(6月28日頃) 穂肥1回目(幼穂長1mm)	出穂18日前(7月5日頃) 穂肥2回目(1週間後)	走り穂確認(7月20日頃) 耐暑肥
基本・省力型	ここのう有機かふか50 20kg	施用しない	有機アグレット844 15~20kg
転作跡(大豆跡)	ここのう有機かふか50 10kg		
一発肥料 (いち太郎70あお)	施用しない		
一発肥料※ (UF入り有機化成355)			

※大豆跡ほ場など、葉色が濃い場合(葉色板:4.5以上)には、穂肥は半量とします。

※UF入り有機化成355(早生用)は「環境こだわり⑦」に対応した肥料です(以下同じ)

「コシヒカリ」穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量		
	出穂18日前(7月13日頃) 穂肥1回目(幼穂7~10mm)	出穂11日前(7月20日頃) 穂肥2回目(1週間後)	走り穂確認(7月28日頃) 耐暑肥
基本・省力型 転作跡(大豆跡)	ここのう有機かふか50 15kg (白未熟対策:10kg)	ここのう有機かふか50 10kg (白未熟対策:15kg)	有機アグレット844 15~20kg
一発肥料 (いち太郎90あお)	施用しない		
一発肥料※ (UF入り有機化成355)			

「キヌヒカリ」穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量		
	出穂25日前(7月6日頃) 穂肥1回目(幼穂1mm)	出穂18日前(7月13日頃) 穂肥2回目(1週間後)	走り穂確認(7月28日頃) 耐暑肥
基本・省力型 転作跡(大豆跡)	(一般) ここのう有機かふか50 25kg	-	有機アグレット844 15~20kg
	(砂壌土地帯) ここのう有機ゆめ80 10kg	(砂壌土地帯) ここのう有機かふか50 20kg	
一発肥料 (いち太郎90あお)	施用しない		
一発肥料※ (UF入り有機化成355)			

「きぬむすめ」穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量		
	出穂25日前(7月15日頃) 穂肥1回目(幼穂1mm)	出穂18日前(7月22日頃) 穂肥2回目(1週間後)	走り穂確認(8月6日頃) 耐暑肥
基本・省力型 転作跡(大豆跡)	ここのう有機かふか50 25kg	施用しない	有機アグレット844 15~20kg
一発肥料 (いち太郎130あお)	施用しない		
一発肥料※ (UF入り有機化成355)			

契約「きぬむすめ(化学肥料)」 穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量	
	穂肥1回目 (7月15日頃)	穂肥2回目 (8月5日頃)
基本・省力型 転作跡(大豆跡)	化成肥料201 20kg	化成肥料201 10kg
一発肥料 (これいいね(中晩生用))	施用しない	

契約「にじのきらめき(環境こだわり対応)」 穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量	
	穂肥1回目 (7月4日頃)	穂肥2回目 (7月25日頃)
基本・省力型 転作跡(大豆跡)	こうのう有機かふか50 25kg	有機アグレット844 15~20kg
一発肥料 (いち太郎90あお)	施用しない	
一発肥料 (UF入り有機化成355)		

※UF入り有機化成355(早生用)は「環境こだわり⑦」に対応した肥料です。

契約「にじのきらめき(化学肥料)」 穂肥の時期と基準量

施肥タイプ	穂肥の時期と10a当たり施用量	
	穂肥1回目 (7月3日頃)	穂肥2回目 (7月25日頃)
基本・省力型 転作跡(大豆跡)	化成肥料201 20kg	化成肥料201 10kg
一発肥料 (これいいね(早生用))	化成肥料201 5~10kg (7月13日頃)	